

を念頭を置き、今年も例年通り、3月13日(日)に「令和3年度 柏谷区総会」を開催いたします。この総会では、令和3年度の区政の進捗状況、令和3年度の予算案、令和3年度の決算案、令和3年度の区民のみなさまへのお願い、令和3年度の区民のみなさまへのメッセージ、令和3年度の区民のみなさまへの感謝の言葉、令和3年度の区民のみなさまへの激励の言葉、令和3年度の区民のみなさまへの応援の言葉、令和3年度の区民のみなさまへの励みになる言葉を申し上げます。



柏谷区長 栗原正行

新型コロナウイルス終息後の活動を見据えて

令和3年度の取り組みです。三つの取り組みです。一、組長、区民の皆様との連携強化。二、伝統行事の継続と運営。三、インターネット環境の整備。

広報柏谷

柏谷区会
編集後記
発行責任者
区長 栗原正行

令和3年度 柏谷区年間行事予定

月日	行事	場所
9月10日(金)	風祭式典	日枝神社
9月26日(日)	流川清掃	流川周辺
10月10日(日)	日枝神社例大祭	日枝神社
10月31日(日)	柏谷区敬老会 (お祝い品配付のみ)	柏谷公民館
11月23日(火)	感謝祭式典	日枝神社
12月5日(日)	地域防災訓練	柏谷区内
12月31日(金)	除夜祭式典	日枝神社
1月1日(土)	元旦祭式典	日枝神社
1月9日(日)	秋葉神社式典 山の神式典	秋葉神社 山の神
2月4日(金)	新三役信任投票	柏谷公民館
2月17日(木)	祈年祭式典	日枝神社
3月6日(日)	巖島神社式典 地神様式典	巖島神社 地神様
4月17日(日)	令和3年度 柏谷区総会	柏谷公民館

※ 諸般の事情により、行事の予定や内容が変更になる場合があります。

副区長の9組の赤地です。新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、本来、人と人が交わり、その成り立つ「地域活動」の自粛が余儀なくされてしまっている現在の状況は、心と人の距離を少し縮めたいと思います。



副区長 赤地 勉

三、インターネット環境の整備。今年5月末にインターネット環境を整えました。これにより、区民の皆様との情報交換のスピード化、各種行事の映像配信、区民からの要望、連絡事項のメール配信などを実現していきます。

副区長(会計担当) 米山 巧。区会計を担当させていただきます。今年度が始まり既に5ヶ月が過ぎようとして、コロナ禍において未だに先行きが不透明な状況が続いていますが、昨年と同様に事業の中止や規模縮小など影響が生じていますが、栗原区長のもとスムーズな事業活動が行えるようにしていきたいと思っております。皆様のご指導、ご協力を賜りながら務めさせていただきます。



副区長(会計担当) 米山 巧



昔どこかの繁華街で見かけた店の入り口には日本地図が掲げてあり「あなたのお国の娘を指名してください」と書かれていた。大人の社交場、キャバレーである。酒を飲みつつお国言葉で女性と語り、故郷の景色を思い浮かべ、時には懐かしき遠き思い出を、時には立身出世を語っていたのではないかと。今その店を調べたところ、銀座唯一のキャバレー「白いばら」とあり、残念ながら2018年に閉店していた。石川啄木も短歌で同じような心情を表している。「ふるさとの訛なつかし停車場の人ごみの中に そを聴きにゆく」この停車場とは東北の玄関口、上野駅のこと。岩手出身の啄木が上京して寂しくなったときに、ふるさとをなまらぎに飛び交う上野駅に行き、寂しい気持ちを紛らわして心を宥めたのだという。啄木が求めたお国言葉であるが、若かった私は方言を積極的に封印した。都会の友人に指摘されて気づいたイントネーションの違いも、なるべくその場かぎりで修正するように努めた。ところが歳を重ねた今、祖父が使っていた生粋の柏谷弁がなんと懐かしく、この頃においては能動的に活用してみても祖父の面影を忍んでいるのだ。亡くなってからもう30年近く経つが、その声、語り口はふとした瞬間にじんわりと脳裏に浮かび上がる。そしてそれはいつも優しい口調の柏谷弁。あれほどダサイと

感じた語尾のダラダラは、今となっては言葉に余韻をもたせる温かみと感じる。ちなみにこの頃は伊豆全般の方言も気に入っており、特に「きゃあるべえじゃ」がイチオシである。ちょっと西洋の言葉っぽい響きもあるし、ユーモラスな感じもする。「そーじゃにゃーら」もかかせない。さて、祖父の好きな逸話の一つに、有名なちゃつきり節誕生エピソードがある。昭和のはじめ、既に詩人として有名であった北原白秋は静岡ご当地ソングの制作を依頼された。それならば県民性をよく知るべしと、しばらく逗留したが、飲み歩くばかりで一向により歌詞が思い浮かばない。その日も昼間から一献傾けていたが、障子を開けた芸者が窓の外に広がるたんぽを見て『きゃあるが鳴くから雨ズラよ』と言った。そのとたん、言葉の響きが彼の魂に火をつけ、30番まで一気に作詞した、という話だ。ふるさとの言葉が織り込まれた歌…。そうだ。柏谷弁の歌を作ったらどうだろう。そしてお祭りや集まりの度にみんなで歌うのだ!

「やんできゃあるにしべえじゃ」というフレーズはぜひ入れたい。とまあ、人生の半分を過ぎた今、育ってきた場所に思いを馳せて懐かしむ事が多くなり、これはいわゆる老化現象の一つかもしれない、と思う。なお、娘はハーフだが(函南と三島の)娘の父方祖父のネイティブ三島弁がうつつり、20歳現在、伊豆地方のハイブリッド弁をかなり流暢に話す。非常におっさんくさい。



編集後記。広報柏谷が久しぶりの発行となりました。前号が昨年12月20日の発行でしたので、8か月ぶりの発行となります。この月までの発行は3か月おきに発行してきていましたが、広報区ではインターネット環境を整備して区民の参加意識を高めていくために、今年5月末にインターネット環境を整えました。これにより、区民の皆様との情報交換のスピード化、各種行事の映像配信、区民からの要望、連絡事項のメール配信などを実現していきます。



日枝神社の正面の引き戸などを修繕いたしました。正面の引き戸は、ベニヤ板が長年の風雨などの影響で老朽化が進み、傷みが激しくなっていました。今回、大判の木目もきれいな杉板で修繕を行いました。コロナ禍で自粛生活が長引いていますが、時には気分転換を兼ね、きれいな日枝神社にお参りしてみたい方が多いのではないでしょうか!



日枝神社の修繕を行いました